

唾液アミラーゼとエジンバラ産後うつ病質問票得点の関連

～産後うつ病の早期発見のために～

看護学部

○助教 かわした 川下 な お こ 菜穂子

キーワード

産後1か月以内、エジンバラ産後うつ病質問票、
唾液アミラーゼ値

研究概要

【目的】本研究は①唾液アミラーゼとエジンバラ産後うつ病質問票（以下、EPDS）との関連性の検証②唾液アミラーゼを用いた産後うつ病スクリーニングの有用性を確認することを目的としました。

【方法】本研究では、A県及びB県内の医療機関1施設、保健所および保健センター3施設の計4施設において実施しました。調査期間は2017年1月1日～3月31日。調査対象は、研究協力の同意が得られた、出産施設を退院した産後1か月以内の56名の女性（以下、褥婦）です。分析方法は記述統計、Pearsonの相関係数を用いて分析し、有意水準は5%未満としました。なお本研究は兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所研究倫理委員会の承認を得て実施しました。

【結果及び考察】対象者の属性は表1のとおりです。唾液アミラーゼ値の平均は40.3kIU/L（SD±31.2）、EPDSの平均得点は4.0（SD±3.0）でした。

本研究では「唾液アミラーゼ値」において「EPDS」（ $r=0.273$, $P<0.05$ ）に有意な正の相関を認めました。このことは産後うつ病のスクリーニングの一手段として「唾液アミラーゼ値」の測定を行うことは、有用であると言えます。

表1 対象者の属性

項目	
褥婦の年齢	32.4歳（±4.5）
分娩歴	初産 経産
分娩週数	39週0日（±1.4）
里帰り出産	している 以前していた していない

アピールポイント

国内外を問わず、周産期におけるメンタルヘルスは大きな課題となっています。我が国においても厚生労働省は産後うつ病等の予防・早期発見のために、2017年より産後2週間及び1か月の産後健診において費用の助成を開始しました。しかし産後1か月健診は以前より多くの施設で行っていますが、産後うつ病の発症時期と言われている、産後2週間の健診はまだ標準的に行われていません。行政としても産後早期の母子に関わることができる乳児家庭全戸訪問事業等がありますが、産後うつ病のスクリーニングとして有用と言われている「EPDS」の実施率は、産後4週までのすべての褥婦に実施しているのは7.9%（平成25年度母子保健課調査より）と低く、産後うつ病等の早期発見としては不十分であると言えます。そこでより簡易な産後うつ病のスクリーニング方法として、本研究では「唾液アミラーゼ値」の測定を検討し有用性を確認しました。この「唾液アミラーゼ値」は、検査時間が2～3分程度であり「EPDS」よりも簡易なスクリーニング方法として期待できます。